(*Lilium auratum*) ノ帶化ヲ記載サレ「明治 33 年 6 月東京小石川植物園內ニテ、莖高人長ヲ超ヘ、全部帶化シテ幅 4 寸余、兩面ニ無數ノ葉ト花トヲ著ケ、頗ル異着ヲ呈セリ」ト。同屬ナレド *Lilium Philippinense* ハ未ダ報文ナキタメ珍シキモノト思ヒ簡單ニ寫眞ト共ニ報告ヲナシ置ク。(三重縣立宇治山田商業學校教諭　秋山幸一)

○りうきうやぶらんヲ本州ニ得タ

りうきうやぶらん (*Liriope gracilis* NAKAI) ハ琉球ニ産スルやぶらんノ一種デ、最近植物學雜誌　第 48 卷 776 頁(昭和 9 年 11 月)ニ中井先生ガ書カレタ樣ニ四國迄分布シテ居ルコトガ知レタ。其後私ハ夏休ミヲ利用シテ紀伊ノ尾鷲ニ游ビ一日附近ヲ歩イテ海岸ニ面シタ路傍デ一種ノやぶらんガ淡紫色ノ花ヲ開イテ居ルノヲ見出シ、歸來コレガりうきうやぶらんでアルコトヲ知ツタ。今ノ所コレガ分布ノ東限デアルガ、熊野灘ニ面シタ各地ニモ自生シテ居ルモノト思ハレル。コノ種ヲやぶらんト分カツ第一ノ特徴ハ細長イ匍枝ヲ地下ニ出シテ、直線的ニ延ビ 20–30 cm 宛ヲ距テテハ先端カラ新苗ヲ出スコトデ、やぶらんデハ太イ短柱狀ノ根莖ガアルノミデ匍枝ハ決シテ出ナイ。葉ハ廣線形デやぶらんノ樣ニ線狀披針形デナイ。花モソノ色ガ淡ク、附キ方モ比較的疎デアリ、又內外花被片ノ大小ノ差ガ一層甚ダシイ等ノ區別ガアル。(前川文夫)

○やまほほずき安房ニ産ス

やまほほずきハ關東ノ採集家ニハ或新ラシイ名デアラウ、然シソレヲ昨年秋千葉縣安房郡ノ山中デ得タ、勿論既ニ採ラレタ人モアラウガ、余ハ關東デハ始メテヾアリ且ツ東京ノ權威アル標本室ニハ此方面ヨリノ標本ハ何レモ無イ、依ツテ本品東端ノ產地トシテ報ジテオク。他ニ產地ヲ御承知ノ君子ハ此際大體ノ地點ヲ報告サレタイ。余ハ其產量ノ少キニ鑑ミ詳細ナル所在地點ハ遠慮スル、何ントナレバ近來普通ノモノヲ採集セズ、從ツテ自己周圍ノモノヲ省ズ、徒ラニ珍草奇木ヲアサル徒ノ橫行スルヲ認ムルカラデアル。カヽル徒輩ノ常トシテ數個ノ珍物ノ所有ヲ以テ滿足シ、植物ニ對スル一般的興味ハ永續セズ、切角ノ珍物ハ徒ラニ死藏サレル結果ニナルノガ常デアル。

却說本品ハ *Physalis charnaesarachoides* MAKINO トシテ植物學雜誌 XXII p. 34 (1908) ニ牧野先生ニヨリ公表サレタモノデ、當時判明セシ產地ハ肥前、肥後、河內ニシテ其後近畿及ビ中國地方ニ發見サレタモノデアル。其後牧野先生ハ *Physaliastrum charnaesarachoides* ト改メ植物研究雜誌 (V. No. 6. p. 24) ニ發表サレタ。概形ハせんなりほほずきニ似テ居ルガ漿果ヲ包ム萼ノ脈上ニ棘狀突起ヲ有スル事ガ目立ツガ葉ノ邊緣ハ波狀粗齒ヲ示シテ居ル。勿論一年生ノモノデ高サ二尺ニモ達シ莖ノ直徑 2 cm. ニモ達スルモノガアル。漿果ハ球形デ赤熟スルラシイガ、余ハ未ダ夫レヲ見ナイ然シ標本製作中ニ朱紅色ニナリツヽアル點カラ見テ、赤熟スルラシイ。牧野先生モ原記載ニ余ト同ジ樣ナコトヲ記サレテ居ル。マタ漿果ノ大サモ先生ハ 1 cm. トサレテ居ルガ先生ハ八月採ラレタ標本デ言ハレタノデ十一月

ノ頃ニハ 1.5 cm ニ達スル。マタ最近大阪ノ宇井縫藏氏カラあかみのやまほほづきト牧野先生ガ假稱サレタモノヽ標本ヲ頂イタガ別種デハナイト考ヘル。　　　（久内清孝）

○したん、こくたん、たがやさん

昭和 9 年ノ秋ノ吉日ノ事デアル、私ガ中井博士ノオ室ヲオ尋ネシタ。其時居會セタ面々ハ前川文夫、籾山泰一ノ兩君デアツタ。其時中井さんハ園ノ事務室ニ行カレテ居タガ、間モナク歸ツテ來ラレテ“君、したん、こくたん、たがやさんヲ見セヨウカ”ト言ツテ大笑サレタ。僕モ少シク面喰ツタガ、“ヘエ”ト答ヘタ、スルト中井さんハ「ポケツト」カラ封筒三枚ヲ出シテ示サレタガ、夫レニしたん、こくたん、たがやさんガ別々ニ包マレテ居テ、表ニハ內容ノ名稱ガ記サレテ居タ。ソレハ某氏カラ其ノ名稱デ栽培シテ居ルノダガ、夫レデヨイカ惡イカ質問ニ送ツテ來タノデアツタ。然シテ中井さんハ したんニはまひさかき、こくたんニひめしやりんばい、たがやさんニくさぎじようざんト解決回答サレタガ、コンナしたん、こくたん、たがやさんハ中井先生モ始メテダトノ事。「ナンセンス」ノ樣ダガ夫レガ假令植木屋仲間ニナリトモ用ヒラレテ居ル名トスレバ吾々モ一應心得テ居テモヨイ樣ニ思ハレルノデ樂屋裏ノ秘事デハアルガ記シテオク。之ニ依ツテ見ルト世間デハドンナモノヲドンナ名稱デ片付ケテ居ルカ判ラナイノデ恐ロシクナツタ。近頃本誌ガ六ケ敷イト云フカラコンナオ笑ヒ草ヲ書イテ見タ、叱ラレルカモ知レナイガ笑フ人モアラウ。（久内清孝）

○天臺烏藥ノ枝ノ打チ方

私ハ本誌第十卷第十號ニ於テ天臺烏藥ノ事ヲ述ベタガ、ソノ中ニ天臺烏藥ガ我國ニ產スルヤウニ書イタノハトンデモナイ間違デアツタ。天臺烏藥ハ日本ノ木デハナク、モト支那カラ渡ツタモノデアル。マタ、コノ木ノ枝ノ打チ方ヲ書イタトコロニ、枝ノ上ノ腋枝ハ翌年ノ春ヲ待ツテハジメテ側枝ヲナス、トアルガ、コレデハワケガワカラナイ。誤脫ガアツタヤウニ思ハレル。コヽハ、枝ノ上ノ腋芽ハ翌年ノ春ヲ待ツテ萠發シテハジメテ側枝ヲナストデモシナケレバ通ジナイ。天臺烏藥ニ於イテハ、枝ノ上ノ腋芽ハ冬芽ヲツクツテ冬ヲ越シテ翌年ノ春萠出テハジメテ側枝ニナル。コノ木ノ枝ハ春萠出テカラ翌年ノ春マデ一年中單一デ夏ノ間ニ更ニ枝ヲ打ツコトガナイ。枝ヲ分ツノハイツデモコノ春ノ新芽ノ時ニ於イテスル。サウシテコノ單一ナ枝ノ上ニ葉ガホボ等シイ間隔ヲ置イテ着イテキル。　（籾山泰一）